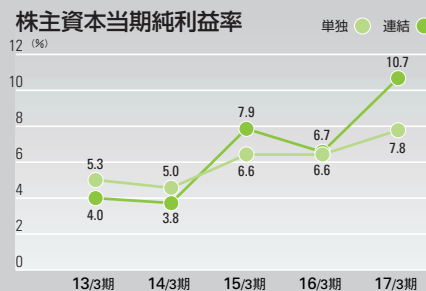
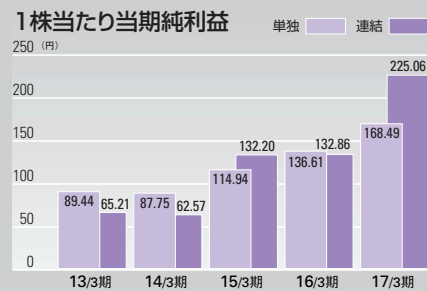
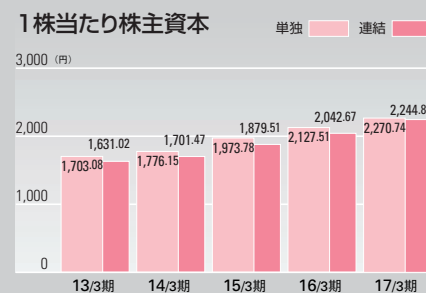
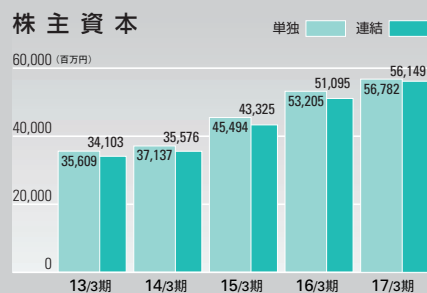
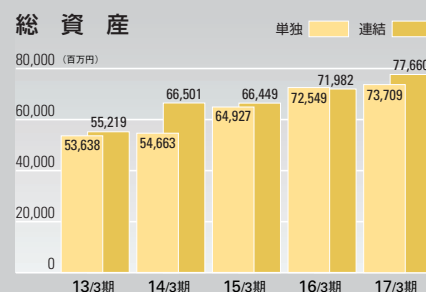
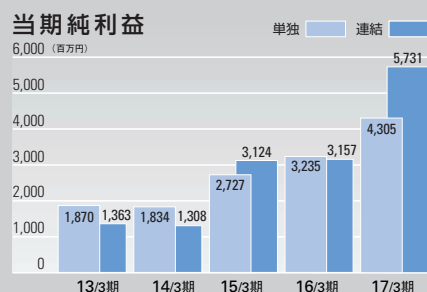
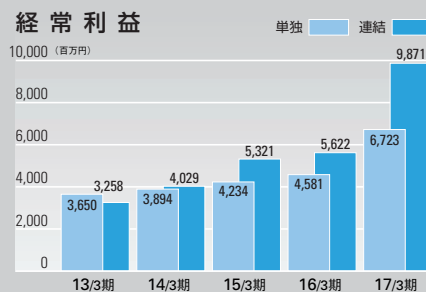
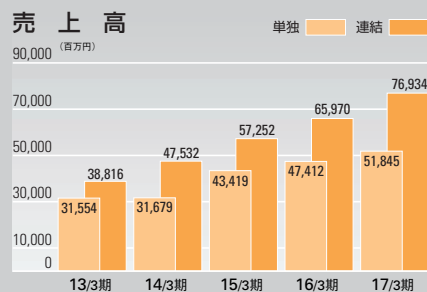




Financial Data

業績の推移



Contents

目次

業績の推移 1

ごあいさつ 2

事業のご報告

事業のご報告 3

今後の事業展開 6

特集・トピックス

フォーカス オン シスメックス
シスメックスグループ
中期経営計画 7

フォーカス オン シスメックス
ライフサイエンスを事業化 9

トピックス

第38期事業活動の動向 11

財務諸表の概要

連結 13

単独 15

株式の状況 17

会社概要 18

株主メモ/IR・広報室からのお知らせ

Message

ごあいさつ

昨年に引き続き、過去最高の業績を達成しました。

株主の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、当社グループを取り巻く市場環境は、日本をはじめとする先進国では高齢化が進んでいます。これにより、がんや糖尿病などの生活習慣病に対する医療ニーズが高まっています。一方で、ブラジルやロシア、インド、中国などの資源大国では経済成長にともない医療環境の整備が進展し、需要の拡大が期待されます。

先進国の医療機関では、ポストゲノム技術の進化と、情報ネットワークを活かしたより高度で、医療費抑制に貢献できる質の高い医療が求められており、ヘルスケア事業は21世紀の成長産業と考えています。

このような状況のもと当社グループでは、情報システムと検体検査機器、検体検査試薬およびサービス&サポートを組み合わせた総合提案型販売を積極的に行い、個々のお客様のニーズに応じたソリューションの提供を推進しました。また、昨年4月には、株式会社シーエヌエーを子会社化し、臨床検査情報システムの品揃えと開発体制を強化しました。一方、ライフサイエンス分野では、がんと糖尿病にフォーカスした研究開発を進めるとともに、先端医療分野において探索的な研究を実施し、事業化に向けた研究開発を促進するため、神戸バイオメディカル創造センター内に「シスメックス・BMAラボラトリー」を開設し、研究開発体制の強化に努めています。

当期の業績としましては、769億円の売上が達成でき、

昨年に引き続き過去最高を更新しました。経常利益は98億円、ROEは10.7%となり、当初の中期経営目標を1年前倒しで達成できたこととなります。なお、当期の期末配当金は、中間決算期に公表しました1株当たり15円から25円に修正し、中間配当金15円と合わせて年間40円といたします。

当社グループでは本年4月、2007年度までの3か年にわたる中期経営計画を策定しました。これによりコア事業である検体検査分野の持続的成長と共に、ライフサイエンス事業への積極的な投資を継続し、新たな収益源の確立を目指します。また、コーポレートガバナンス体制や企業としての社会的責任への取り組みを強化し、さらなる企業価値の向上に努める所存です。

今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



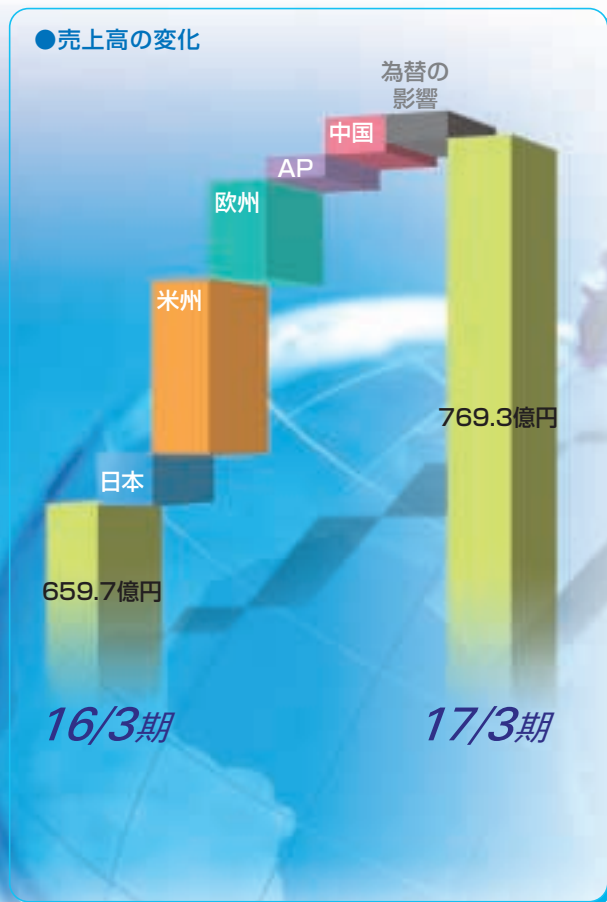
代表取締役社長

家次 恒

Operation Review

事業のご報告 —所在地別セグメント—

●売上高の変化



※**試薬**: 検体検査に用いられる医療用医薬品のことで、体外診断用医薬品ともいわれる。人体に直接使用されるものではなく、体外に取り出された血液や体液に使用される。

※**POC**: 患者さんのそばで行う臨床検査で、主にクリニック・外来・ICU・手術室などで有効に機能している。Near Patient Testing、Bedside Testingなどと同意語として使用される場合もある。

※**検体検査**: 血液や尿、細胞などを体の中から取り出して調べる検査。シスメックスは、「検体検査」分野で、血液検査や免疫血清検査、尿検査などを行うための機器や試薬、さらにはこれらに関するソフトウェアなどの研究開発から製造・販売・サービス&サポートまで手がけている総合メーカーである。

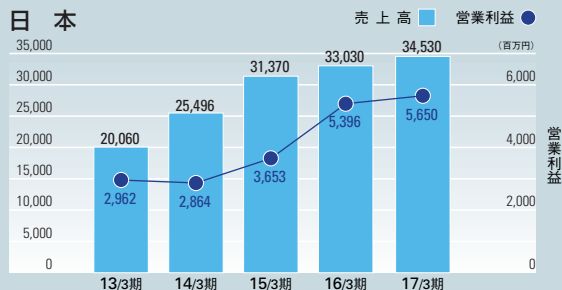
※**サービス&サポート**: お客様がシスメックスの検査装置を使用する際に、検査結果に関する問い合わせや、装置の異常に関する問い合わせなどに対応すること。また、学術的な視点で、新たな検査手法の提案なども行っている。

日本

ビジネス領域の拡大に取り組み、リーディングカンパニーとしての真価を発揮します。

当期は、塗沫標本作製装置「SP-1000i」や血液分析装置用アップグレードソフトウェア「XE-Proシリーズ」などの新製品導入によりお客様の評価が向上するとともに、総合提案型販売活動の推進により、血液分析装置・血液凝固測定装置・試薬*の売上が伸長しました。また、POC*（ポイント・オブ・ケア）分野、新規事業分野の売上も拡大し、株式会社シーエヌエーとの連結効果により、IT分野の売上も増加しています。

現在日本市場では、医療費抑制政策が進められる中で厳しい状況が続いています。ここ数年はこの状態が継続されると予測されています。さらに高齢化が進み、ヘルスケア事業、医療事業へのウエイトが高まり、期待できるマーケットとして拡充を目指します。当社は検体検査*分野のリーディングカンパニーとして、機器・試薬・検査情報システム・サービス&サポート*を合わせた独自の総合提案型販売活動をより一層強力に推進し、顧客ニーズに応じたソリューションビジネスの強化に取り組みます。



※ 韓国と台湾の売上は日本に含まれます。

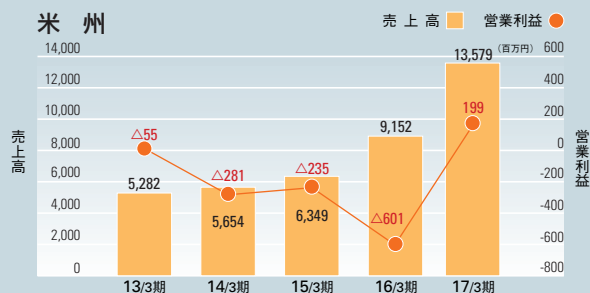
米州（北米・中南米）

直接販売体制への移行に成功し、黒字を実現。
さらなる収益の拡大を目指します。

当期は、平成15年度下期から移行した米国での直接販売・サービス体制が本格稼動した効果により、血液分析装置および試薬、サービス関連の売上が大幅に増加しました。また、大手検査センターに対する血液凝固測定装置・尿検査装置および試薬の売上が拡大しました。

当社グループにとって、アメリカは世界最大のマーケットです。現在、直接販売サービス体制への移行が完了し、大きなビジネスチャンスを迎えています。初年度は赤字を計上しましたが、当期は黒字化を達成することができました。アメリカ市場における当社グループのシェアが低い状況の中で、さらなる成長の余地があり、今後はシスメックスブランドをより一層浸透させ、機器の販売台数を増加し、それともなう試薬*の売上の増大により、さらなる収益性の向上に取り組みます。

具体的な施策としては、お客様に対してのサービス&サポート力をさらに高め、新たな高付加価値を提供いたします。



欧州

収益性が大幅に向上。
市場の拡大を背景に、さらなる成長を目指します。

当期は、医療費抑制政策が続く厳しい環境のもと、コスト削減・効率化に向けたニーズが強く、IT分野での販売サービス体制を再編し、検査情報システムを含めた総合提案型販売活動の強化と効率化に取り組みました。これにより、血液分析装置・血液凝固測定装置・尿検査装置および試薬の売上と、IT分野での売上が好調に推移しました。

現在、欧州市場では、当社グループの業績が大きく成長しています。この要因としては、検査情報システムをからめたソリューションビジネスの展開が好調に進展していることと、現地でのシスメックスブランドのイメージ向上が挙げられます。また、EU圏の拡大により、マーケット自体が広がるなど、前期に引き続き2桁成長を実現しています。今後は、伸長幅をさらに広げていくため、品揃えの強化を図るとともに、EU新規加盟の東欧諸国をターゲットに地理的拡大に取り組みます。



Operation Review

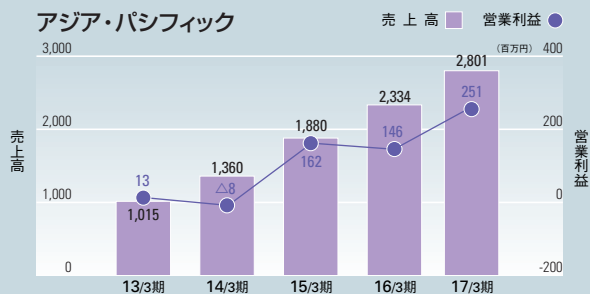
事業のご報告 —所在地別セグメント—

アジア・パシフィック

市場規模の拡大が期待される、
インド・インドネシアへのアプローチを強化します。

当期は、血液分析装置用試薬および血液凝固測定装置の売上が好調に推移し、POC（ポイント・オブ・ケア）分野でも順調に売上が増加しました。また、この地域は黒字化が定着し、安定した成長が実現しています。

アジア・パシフィック市場は、オーストラリア、ニュージーランドなどの先進地域と、経済の発展とともに市場拡大が期待できるインド、インドネシアなどにマーケットの特性が分かれています。オセアニア地域では、業績が順調に伸びています。一方、特に人口の多いインド、インドネシアは急速な経済成長が期待できるマーケットと位置付け、品揃えを拡充し、販売を強化いたします。



中国

中国国内の地域ニーズに応じた事業を展開し、
現地医療の発展に向けた取り組みを強化します。

当期は、前年度のSARS感染対策で需要が急増した主力の血液分析装置の販売が減少しましたが、血液分析装置用試薬、尿検査装置・血液凝固測定装置および試薬の売上が伸びました。

中国市場は、経済成長がめざましく、特に注目しているマーケットです。ターゲットとなる市場は、医療の高度化が求められる都市部と、医療環境の整備が進む農村部に分かれます。それぞれのニーズに合わせた戦略を展開し、サービス&サポートによる差別化を図るとともに、品揃えの強化にも取り組んでいます。今後は、現地の医療システム向上に貢献する学術活動などをさらに強化していくとともに、単に製品を販売するだけでなく、ソリューションを提供してまいります。



■今後の事業展開

ライフサイエンス事業の確立を強力に推進するとともに、新規市場に向けた積極的なビジネスを展開し、さらなる業績の向上に努めます。

今後も日本および欧米諸国において医療制度改革が引き続き推進され、市場環境は厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと当社グループでは、本年4月より業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、執行役員制度を導入しました。また、研究開発においては、乳がんリンパ節転移*迅速診断装置および診断薬などの市場導入に向けた治験活動を進め、ライフサイエンス事業の確立に注力します。また、国内ビジネスでは、総合サプライヤーとしてのトータルソリューションビジネスを推進し、POC（ポイント・オブ・ケア）市場などの新規マーケットに向けた販促活動を強化します。海外ビジネスでは、世界最大の市場である米国におけるシスメックスブランドの認知拡大を図り、直接販売サービス体制を活かし、お客様のニーズに合わせた提案活動を推進します。これにより、大規模病院や検査センターから開業医にいたるまで幅広い顧客層への浸透を図り、市場シェアの拡大に努めます。また、東欧、ロシア、アフリカなどの新規マーケットでの売上拡大や、新商品投入による中国での生化学ビジネスの育成などについても積極的に取り組む方針です。

次期の業績見通しについては、売上高は860億円（前期比11.8%増）、利益面においては、経常利益110億円（前期比11.4%増）、当期純利益65億円（前期比13.4%増）を予想しています。なお、配当金は、1株につき年間40円（中間期20円、期末20円）を予定しています。

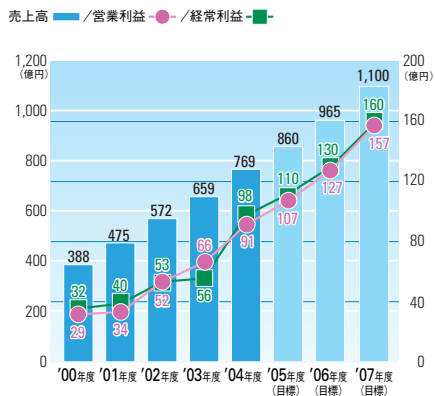
※2006年3月期より、連結子会社の決算期を変更し、親会社である当社の決算期に統一します。

グループ中期経営計画

■2007年度目標（連結）

売上高	1,100億円
営業利益	157億円
経常利益	160億円

（為替レート：1ドル=105円
1ユーロ=135円）



*リンパ節転移:がんの転移方式の一つで、ある臓器で増殖したがん細胞がリンパ管の流れに乗って近接のリンパ節に転移を繰り返し、他の臓器へたどり着き、そこで増殖すること。この場合、病巣だけでなくがんが転移したリンパ節を含めて切除（郭清）することが再発予防に有効な手段となる。

[シスメックスグループ・中期経営計画] 2005年度>>>2007年度

増収増益と ライフサイエンス事業への 積極投資を共に実現

2007年度、連結売上高「1,100億円」連結経常利益「160億円」達成を目指す。

本年4月、グループの持続的成長と企業価値の向上を目指して、3カ年にわたる中期経営計画（2005年度～2007年度）を策定しました。本計画では、当社グループの中核事業である検体検査事業の持続的成長を基軸に、つねに高付加価値製品を生み出す技術力の強化、新たなコアビジネス確立に向けたライフサイエンス事業を積極的に推進し、グループ全体のさらなる収益の拡大、企業価値の向上を図ります。

達成目標

連結売上高	1,100億円
連結経常利益	160億円
連結経常利益率	14.5%
ROE	13.0%



2010年長期ビジョン [A Unique & Global Healthcare Testing Company]

当社グループは、2010年に向けた長期ビジョンを掲げ、特徴のあるグローバル企業として、先進のテクノロジーと独自の強みを活かしたソリューションをお客様に提供することで、ヘルスケア

テストング領域におけるリーディングカンパニーを目指しています。今回スタートした中期経営計画は、これを踏まえた3カ年の計画で、2010年目標に向けたステップと位置付けています。

>>> 中期経営計画の重要課題 <<<

課題

1

検体検査事業の拡充

グローバルベースでの
検体検査事業の持続的成長と収益拡大

医療先進諸国では、高度医療技術の進化、医療制度改革が進められる一方で、中国やEU新規加盟国、その他のアジア諸国では経済成長にともない医療環境整備が進むなど、地域ごとの顧客ニーズが多様化しています。当社はグローバルにビジネスを展開し、高品質な商品力

に加え、検査情報システム、サービス&サポートなど、他社にない総合力を強みとして、地域特性に応じたソリューションを推進しています。今後は、各地域のお客様のニーズに応じた提案型販売活動を強化し、コア事業である検体検査事業の更なる成長と収益の拡大を目指します。

課題

2

技術力の強化

高付加価値製品を開発し、
他社との差別化を図る技術力を強化

メーカーにとって技術力は根幹であり、独自の強みを活かした高付加価値製品を継続的に提供していくことが重要です。当社グループには、機器・試薬・IT・システムなどさまざまな技術力があります。それらをかき融合させ、差別化を図るかが大きな課題です。その一環として、

本年4月に子会社である国際試薬株式会社が持つ試薬開発機能を統合し、研究開発機能を集約しました。なお、当計画では、研究開発人員については3年間で約200名の増員、研究開発費は3年累計で290億円を計画しています。

課題

3

ライフサイエンスの事業化

新たなコアビジネスとして
ライフサイエンス事業を確立

近年当社は、患者さんのクオリティ・オブ・ライフ*の向上を目指し、がんと糖尿病にフォーカスした疾患マネジメント*の技術開発に取り組んで来ました。現在、がんのリンパ節転移迅速診断技術、抗がん剤効果予測診断技術、がん再発予測診断技術、子宮頸がん*スクリーニング技術、微侵襲血糖自己測定技術および

糖尿病マネジメントシステムなどの商品化を進めており、2006年度より順次市場導入を予定しています。本計画では、ライフサイエンスの事業化を目指し、日米欧3極同時治験の実施、販売・サービス体制・学術体制の構築、市場認知活動などを加速させ、新たなコアビジネスの確立を目指します。

*疾患マネジメント：新しい検査を導入することで、患者さん個々に最適な医療を提供するマネジメントシステム。

*子宮頸がん^{けい}：婦人科がんの中で、世界で2番目に発症頻度が高く、毎年50万人が罹患している。一方で、より早期に発見することができればより多くの患者さんが治療可能であることが特徴。

新しい事業の創造

2010年に向け ライフサイエンスを事業化

当社では、2000年に中央研究所を設立し、ポストゲノム*技術を活用したライフサイエンス分野の研究開発に取り組んできました。特に、“がん”と“糖尿病”にフォーカスしたテーマを選定し、病気の早期発見から治療に至るそれぞれの段階で、患者個々に最適な医療を提供する”疾患マネジメント”実現のための「価値の高い検査」の創出を目指しております。

今後は、これまでの研究開発から事業化へと展開させるために、日本、米州、欧州での治験*の実施、販売サービス体制の整備、市場認知活動の実施などの取り組みを加速してまいります。



がん再発
予測診断技術

けい
子宮頸がん
スクリーニング技術

事業の

がんリンパ節
転移迅速診断技術

抗がん剤効果
予測診断技術

技術シナジーの創出で 事業領域の拡大を実現

当社グループは、これまで血液分析装置の開発、それに関連する試薬開発を通じて、技術の蓄積と幅の拡大を進めてきました。これらのコア技術に加えてライフサイエンスの新たな技術を創出し、患者さんのQOL向上を実現する高付加価値商品の提供を通じて、新たな市場を創造します。

>> 事業の拡がり

“がん”の疾患マネジメントにおいて、“子宮頸がんスクリーニング技術”[＊]、“がんリンパ節転移迅速診断技術”、“がん再発予測診断技術”、“抗がん剤効果予測診断技術”など、がんの治療方針決定を支援する、価値の高い検査を提供するための新しい研究開発に取り組んでいます。当社の活躍の場は、従来の検体検査分野から医療全体に拡大しようとしています。このように新たな診断技術の開発により、検査・診断市場は大きく拡大していくと考えられます。

＊**ポストゲノム**：遺伝子の中から役立つものを探しだしてその機能を明確にし、さらに個人差を生む原因となる塩基配列の違いを解明すること。ポストゲノム研究が進むことで、個人の塩基配列の違いによる「テーラーメイド医療」など、医療技術の進歩が期待できる。

＊**治験**：新しい薬が誕生するための最終過程に、有効性と安全性の評価を行う制度。

＊**スクリーニング技術**：スクリーニングとは、異常と正常をふるいわけること、検体検査においては、精密な検査が必要なものと必要の無いものをふるいわけを目的に実施される。

拡がり

Topics 第38期事業活動の動向

2004年

4月

- 自動血球分析装置の校正に関するサービスを開始

5月

- オランダのフリー大学医療センターと子宮頸がんスクリーニング技術の大規模臨床性能評価を開始
- 神戸バイオメディカル創造センター（BMA）に研究拠点を開設



神戸バイオメディカル創造センター

先端医療分野において探索的な研究を実施し、事業化に向けた研究開発を促進するため、神戸バイオメディカル創造センター内に「シスメックス・BMAラボラトリー」を開設しました。特に、新たながん診断技術の開発に取り組みます。

7月

- 米国でのバイエルヘルスケアと共同で、尿検査自動搬送システムの発売

- 「神戸ハイテクパーク」に事業用不動産を取得

8月



2005年5月よりソリューションセンターとしてオープン

- アテネオリンピックのドーピングコントロールセンターに当社製品を設置



ドーピングコントロールセンターに採用された多項目自動血球分析装置 XE-2100

8月

- 富士写真フィルム株式会社と中国での小型生化学検査装置の販売提携



小型生化学検査装置 富士ドライケムシステム FDC 7000



希森美康生物技（無錫）有限公司

- 中国で第二の試薬生産拠点となる無錫工場が開業

9月

- 世界初、Webカメラ搭載の塗抹標本作製装置* SP-1000*i* 発売



塗抹標本作製装置SP-1000*i*

10月

- 全自動尿中有形成成分分析装置 UF-110*i* 発売



全自動尿中有形成成分分析装置UF-110*i*

2005年

1月

- 早期がん患者の再発リスクを診断できる、細胞周期*プロファイリング技術の開発に成功

- デイドベーリング社との血液凝固検査*分野の業務提携が10周年を迎える

1995年、同社と血液凝固検査分野におけるグローバルな販売提携を締結して以来、本年度で10周年を迎えました。両社は、同分野において世界シェアNo.1の地位を確立しています。今後は、さらにお互いの強みを活かし、お客様のニーズにお応えしていきます。

3月



10周年記念式典にて

- 当社の血液分析装置が米国のユーザー満足度格付で好評価を獲得
- 会社分割による「国際試薬株式会社」の試薬開発部門を承継
グループの総合力強化の一環として、商品開発機能の統合を図るため、100%子会社である同社の試薬開発部門を会社分割し、当社が承継しました。
- 執行役員*制度の導入、指名委員会、報酬委員会の設置

4月

4月

- 地域貢献の一環として、神戸市立王子動物園のパンダを支援

地元神戸への地域貢献活動のひとつとして、王子動物園で人気者のパンダを支援する企業となりました。メスのパンダ「タンタン」の前には、社名入りの看板が設置され、新聞・テレビなどで取り上げられました。



5月

- 震災復興10年の「Tシャツプロジェクト」に参加

当社は、神戸商工会議所が行う震災復興10年の記念イベント「Tシャツプロジェクト」に参加しています。このプロジェクトは、今まで国内外からいただいたご支援への感謝の気持ちを表しています。



▲当社Tシャツデザイン



*血液凝固検査：血液から血球成分を取り除いた血漿を検査し、血友病の診断、出血のしやすさ、血栓症の傾向や、肝機能の状態を調べる検査。

*執行役員：取締役会の決定にしたがって業務遂行の責任と権限を持つ役職。

貸借対照表

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	50,060	48,239
固定資産	27,599	23,742
● 資産合計	77,660	71,982
負債の部		
流動負債	18,161	18,907
固定負債	2,546	1,965
● 負債合計	20,708	20,873
少数株主持分		
少数株主持分	802	13
資本の部		
資本金	7,954	7,943
資本剰余金	11,182	11,170
利益剰余金	36,050	31,243
その他有価証券評価差額金	656	456
為替換算調整勘定	423	357
自己株式	△118	△75
● 資本合計	56,149	51,095
負債・少数株主持分・資本合計	77,660	71,982

資産及び負債・資本

総資産は前期末に比べ、56億77百万円増の776億60百万円となりました。主な要因は、売上高の増加に伴い売上債権や棚卸資産が増加したこと等によるものです。負債は仕入債務が増加したものの借入金の返済を進めたこと等により前期比1億64百万円減の207億8百万円となりました。一方、株主資本は当期純利益が57億31百万円と業績が好調であったこと等により前期比50億53百万円増の561億49百万円となり、株主資本比率も71.0%から72.3%へわずかに上昇しました。

損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成16年4月1日から平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
● 売上高	76,934	65,970
売上原価	32,803	27,940
売上総利益	44,130	38,029
販売費及び一般管理費	35,027	31,414
営業利益	9,103	6,615
営業外収益	1,218	364
営業外費用	450	1,356
経常利益	9,871	5,622
特別利益	19	31
特別損失	652	396
税金等調整前当期純利益	9,237	5,257
法人税・住民税及び事業税	3,614	2,557
法人税等調整額	△108	△413
少数株主利益	0	△44
当期純利益	5,731	3,157

売上高

売上高は前期に比べ、109億64百万円増の769億34百万円(前期比16.6%増)となりました。国内は前期に比べ、16億23百万円増の334億7百万円(前期比5.1%増)、海外は各地域とも好調で前期に比べ、93億41百万円増の435億27百万円(前期比27.3%増)となり、海外売上高比率は56.6%(前期は51.8%)となりました。

当期純利益

有価証券等評価損及び米国子会社の事業再編費用等により、特別損失が前期に比べ、2億56百万円増加したものの好調な業績を反映して、当期純利益は25億73百万円増の57億31百万円(前期比81.5%増)となりました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,691	9,300
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,630	△3,212
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,376	△2,427
現金及び現金同等物に係る換算差額	55	△195
現金及び現金同等物の増減額	△3,260	3,465
現金及び現金同等物の期首残高	13,718	10,253
● 現金及び現金同等物の期末残高	10,457	13,718

キャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は、主に法人税等の支払額が増加(前期比31億18百万円増)したこと等により、前期より26億9百万円減少して66億91百万円となりました。投資活動の結果、使用した資金は、投資不動産の取得等の特別な支出もあり、前期より24億18百万円増加して56億30百万円となりました。財務活動の結果、使用した資金は、借入金の返済を進めたこと等により、前期より19億49百万円増加して43億76百万円となりました。これらの要因により、現金及び現金同等物の期末残高は、前期より32億60百万円減少して104億57百万円となりました。

経常利益

増収効果と売上原価の低減、販売費及び一般管理費の抑制に加えて為替差益の影響もあり、連結経常利益は前期に比べ、42億48百万円増の98億71百万円(前期比75.6%増)となりました。

剰余金計算書

(単位:百万円)

	当期		前期	
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで		平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	
資本剰余金の部				
資本剰余金期首残高		11,170		8,736
資本剰余金増加高				
株式発行による組入額	11		-	
転換社債の転換による組入額	-	11	2,433	2,433
資本剰余金期末残高		11,182		11,170
利益剰余金の部				
利益剰余金期首残高		31,243		28,784
利益剰余金増加高				
当期純利益	5,731	5,731	3,157	3,157
利益剰余金減少高				
配当金	823		598	
役員賞与	100		99	
(うち監査役賞与)	(14)	924	(17)	698
利益剰余金期末残高		36,050		31,243

貸借対照表

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
資産の部		
流動資産	38,938	42,033
固定資産	34,771	30,516
資産合計	73,709	72,549
負債の部		
流動負債	15,370	18,293
固定負債	1,556	1,050
負債合計	16,927	19,344
資本の部		
資本金	7,954	7,943
資本剰余金	12,113	12,101
利益剰余金	36,214	32,822
その他有価証券評価差額金	617	413
自己株式	△118	△75
資本合計	56,782	53,205
負債及び資本合計	73,709	72,549

利益処分

(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成17年6月24日 株主総会決議	平成16年6月25日 株主総会決議
当期末処分利益	5,309	3,917
利益処分額	3,722	2,538
配当金	624	449
	1株につき 普通配当25円	1株につき 普通配当18円
役員賞与	98	89
(うち監査役賞与)	(11)	(10)
別途積立金	3,000	2,000
次期繰越利益	1,586	1,378

(注) 1.記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

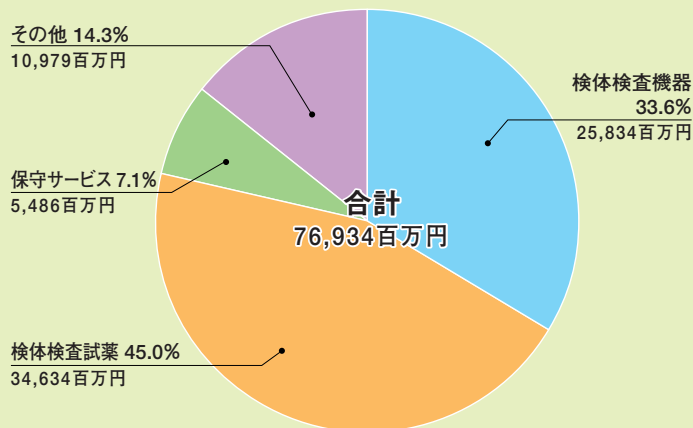
2.当期は1株につき15円の間配当を実施いたしました。

損益計算書

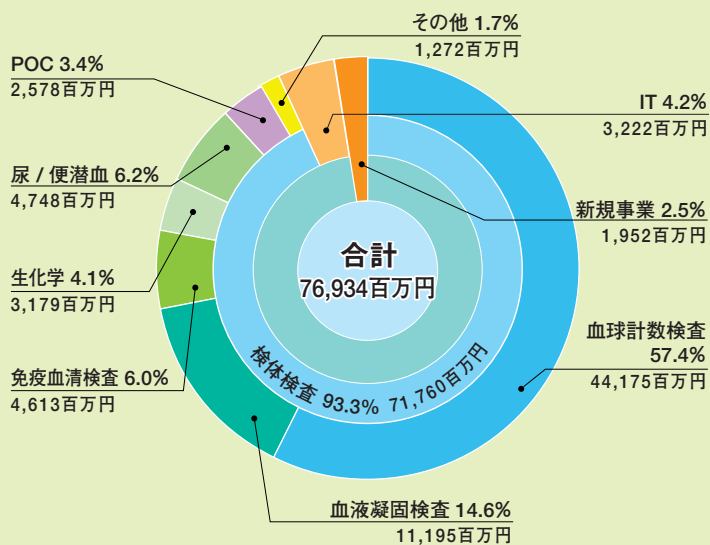
(単位:百万円)

	当 期	前 期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
売上高	51,845	47,412
売上原価	23,787	21,894
売上総利益	28,057	25,518
販売費及び一般管理費	23,696	21,305
営業利益	4,360	4,212
営業外収益	2,760	1,649
営業外費用	397	1,280
経常利益	6,723	4,581
特別利益	4	15
特別損失	410	167
税引前当期純利益	6,317	4,429
法人税・住民税及び事業税	2,161	1,384
法人税等調整額	△149	△190
当期純利益	4,305	3,235
前期繰越利益	1,378	957
中間配当額	374	276
当期末処分利益	5,309	3,917

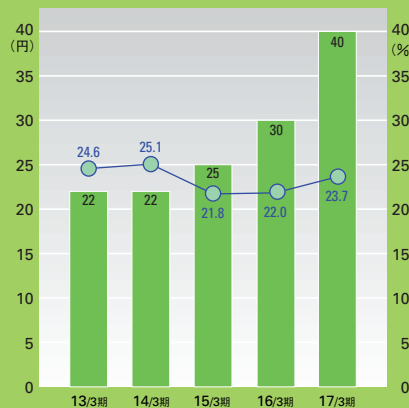
品目別販売実績（連結）



事業別売上高（連結）



配当性向 / 1株当たり配当額



配当政策

【基本方針】

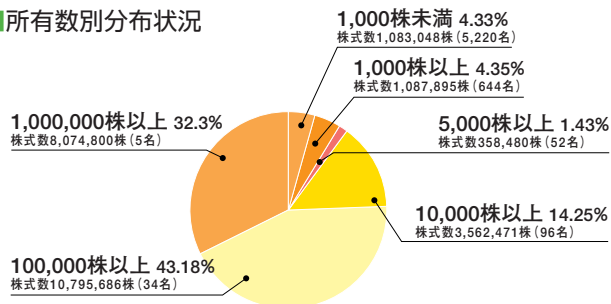
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つとして位置付けており、継続的な配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としています。

株式の状況

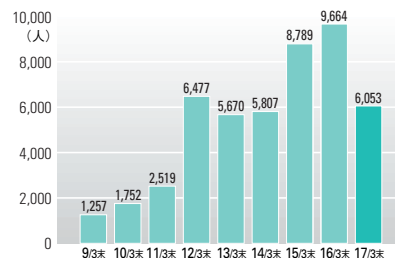
■ 会社が発行する株式の総数 74,836,000株

■ 発行済株式総数 25,002,798株

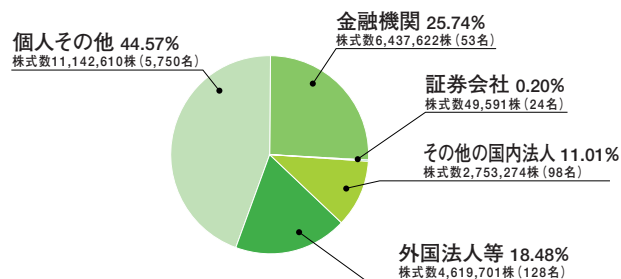
■ 所有数別分布状況



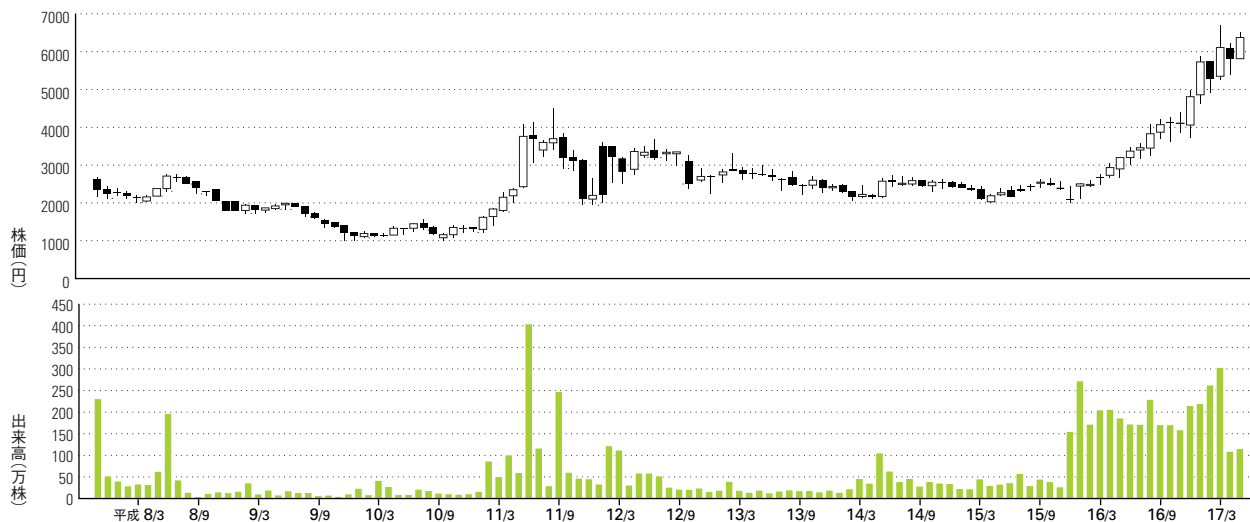
■ 株主数の推移



■ 所有者別分布状況



■ 株価・出来高の推移



※平成8/7までは大証株価、翌月以降は東証株価を使用。

会社概要



連結子会社および関連会社

- 販売 ●
- 製造 ■
- 開発 ▲
- 物流 ●
- 持株会社 ★
- 統括拠点 □

- 商 号 シスメックス株式会社
SYMEX CORPORATION
(平成10年10月1日東亞医用電子株式会社から商号変更)
- 設立年月日 昭和43年2月20日
- 資 本 金 79億5459万円
- 格 付 け A (R&I:格付投資情報センター)
- 従 業 員 数 1,119名 ※左記の従業員数には関係会社への出向者218名および嘱託、パートタイマー259名は含んでおりません。
- 主な事業の内容 臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに
関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
- 主な事業所
本 社 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
TEL.078-265-0500 (代) FAX.078-265-0524
テクノセンター 加古川工場 小野工場
仙台支店 北関東支店 東京支店 名古屋支店
大阪支店 広島支店 福岡支店
営業所 札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、
京都、神戸、高松、岡山、鹿児島

■ 主な関係会社

- 国際試薬株式会社
- メディカ株式会社
- トーマメディカル株式会社
- シスメックス物流株式会社
- 株式会社アール・イー・システムズ
- 株式会社シーエヌエー
- SYMEX AMERICA, INC. (アメリカ)
- SYMEX REAGENTS AMERICA, INC. (アメリカ)
- SYMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA. (ブラジル)
- SYMEX EUROPE GMBH (ドイツ)
- SYMEX DEUTSCHLAND GMBH (ドイツ)
- WELLTEC GMBH (ドイツ)
- SYMEX UK LIMITED (イギリス)
- SYMEX LOGISTICS UK LTD. (イギリス)
- SYMEX HOLDING BELGIUM S.A. (ベルギー)
- SYMEX BELGIUM S.A. (ベルギー)
- SYMEX FRANCE S.A.R.L. (フランス)
- SYMEX BELGIUM IT SLOVAKIA S.R.O. (スロバキア)
- 済南希森美康医用電子有限公司 (中国)
- 希森美康香港有限公司 (中国)
- 希森美康医用電子 (上海) 有限公司 (中国)
- 希森美康電脳技術 (上海) 有限公司 (中国)
- 希森美康生物科技 (無錫) 有限公司 (中国)
- SYMEX SINGAPORE PTE LTD. (シンガポール)
- SYMEX (MALAYSIA) SDN BHD (マレーシア)
- SYMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD. (インド)
- SYMEX (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)
- MED-ONE CO.,LTD. (タイ)
- SYMEX SAN TUNG CO.,LTD. (台湾)
- SYMEX NEW ZEALAND LIMITED (ニュージーランド)
- PT. SYMEX INDONESIA (インドネシア)

役員のご紹介

取締役社長
(代表取締役) **家次 恒**
専務取締役 **雪本 賢一**
常務取締役 **和歌 光雄**
常務取締役 **岩崎 為雄**

取締役 **白置 栄一**
取締役 **中谷 正**
取締役 **林 正好**
取締役 **大東 重則**

取締役 **山本 博**
取締役 **中島 幸男**
取締役 **田村 幸嗣**

常勤監査役 **明田 光弘**
常勤監査役 **岩田 豊太郎**
監査役 **石田 義暁**

株主メモ

■決算期日	3月31日
■定時株主総会	6月
■基準日	
定時株主総会	3月31日
利益配当金	3月31日
中間配当金	9月30日
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。	
■公告掲載新聞	日本経済新聞
■上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
■証券コード	6869
■1単元の株式の数	100株

■株式事務	
名義書換代理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先・ 電話照会先)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店

- お知らせ
- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
 - 配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
 - 単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは名義書換代理人にお問い合わせください。

IR・広報室からのお知らせ

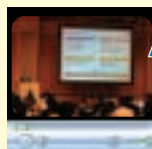
2004年度の 「IR優良企業奨励賞」を受賞しました。

当社は日本インバスター・リレーションズ協議会が行っている、2004年度IR優良企業賞の奨励賞を受賞しました。この賞は、優れたIR活動を実施している株式公開企業に対して贈られ、1996年に始まり今回が9回目となります。今回は会員企業318社より応募があり、著名なアナリスト、投資家、報道機関などで構成された審査委員会により選定され、12月1日に東京プリンスホテルにて授賞式が開催されました。受賞企業は、当社のほか、商船三井、旭化成、アサヒビール、エーザイ、NTTドコモ、TOTO、パーク24の7社です。

今後、株主の皆様方からご満足いただけるIR活動の充実に努めてまいります。



決算説明会の模様を当社ホームページにて、動画でご覧いただけます。



URL=<http://www.sysmex.co.jp/ir/>

決算資料などをwebサイトからダウンロードできます。

株主様アンケート実施のお願い

当社ではこの度、株主の皆様からご要望やご質問を伺うため、アンケートを実施いたします。

お寄せいただいた貴重なご意見を、今後のIR活動に反映させ、企業価値の向上に努めてまいります。

同封のアンケートはがきにご記入の上、ご返送ください。
ご協力の程、よろしくお願いたします。

